

# 第31回

# 社会言語科学大会

Program of the 31st Biannual Meeting of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

## 2013/3/16-17

日時：2013年3月16日(土)/17日(日) 受付開始：9:30  
 場所：統計数理研究所・国立国語研究所 〒190-8562 東京都立川市緑町10-3  
 交通：多摩モノレール「高松駅」下車（徒歩約10分）, JR「立川駅」北口バス2番乗り場より立川バス「大山団地方面行き」, 「立川学術プラザ」下車（統計数理研究所正門前に停車）. または「裁判所前」下車（統計数理研究所まで徒歩約5分）  
 参加費(大会論文集1冊込)：4,000円/会員 5,000円/非会員 3,000円/学生会員 4,000円/学生非会員(事前申込み割引)の期限等につきましてはホームページをご覧ください  
 問い合わせ先：社会言語科学会研究大会委員会 E-mail: jass-desk@bunken.co.jp http://www.wdc-jp.com/jass/31/

9:30-		受付〔統計数理研究所2F 大会議室前ロビー〕				3月16日(土)			
10:00-10:30	口頭発表	<セッション1> [2F会議室1] 司会：本田 明子（立命館アジア太平洋大学） ・指示詞の発話機能 李 京和（北海道大学）	<セッション2> [3Fセミナー室5] 司会：岩田 一成（広島市立大学） ・演劇の中の身体とことば 坊農 真弓（国立情報学研究所） 細馬 宏通（滋賀県立大学）	<セッション3> [3Fセミナー室3&4] 司会：竹口 智之（サハリン国立総合大学） ・ターン冒頭部に「もう」を含む発話の相互行為上のはたらき 増田 将伸（甲子園大学）	<セッション4> [3Fセミナー室1] 司会：柳田 直美（関西学院大学） ・自然会話に現れた常体から敬体へのアップシフトについて 金 アラン（東北大学）				
10:35-11:05		・「お客様の声」における自称詞の使用実態 大谷 鉄平（全州大学）	・聞き手は「わからない」をどのように可視化するのか 白井 宏美（慶應義塾大学） 片岡 邦好（愛知大学） 杉浦 秀行（茨城大学/オークランド大学）	・親しい会話における聞き手行動 植野 貴志子（日本女子大学）	・接触場面初対面会話に現れるホスト・ゲスト役割意識の様相 難波 康治, 三牧 陽子（以上, 大阪大学）				
11:10-11:40		・日本語会話の意味交渉 赤羽 優子（筑波大学）	・組織活動中での案件/問題の指示：展示制作ミーティング場面を事例に 平本 毅（京都大学） 高梨 克也（科学技術振興機構/京都大学）	・「単位としての会話」に必要な要素とはなにか 居關 友里子（筑波大学）	・大阪府中年層女性の携帯メールの言語的特徴 白坂 千里（大阪大学）				
11:45-12:15		・「～的な」に関する一考察 斬 園元（北海道大学）							
13:15-13:20	開催校ご挨拶〔2F 大会議室〕								
13:20-13:35	大会発表賞受賞式〔2F 大会議室〕 ・インターネットを通じた「心に残るつぶやき」の多言語化 ~prayforjapan.jp多言語翻訳プロジェクト参加者へのインタビュー分析を通じて~ .. 遠藤 忍（慶應義塾大学） ・初対面の会話におけるほめに対する応答の分析 -ほめへの「回避型」応答の再検討 ..... 張 承姫（関西学院大学）								
13:35-14:35	徳川賞授与式及び記念講演〔2F 大会議室〕 <優秀賞> 話し手の視線の向け先は次話者になるか ..... 榎本 美香（東京工科大学）, 伝 康晴（千葉大学） <萌芽賞> 身振りにおけるマイクロスリップと視点の持続性 .. 古山 宣洋（情報・システム研究機構国立情報学研究所/総合研究大学院大学/東京工業大学）, 末崎 裕康（総合研究大学院大学/日本学術振興会）, 関根 和生（日本学術振興会）								
14:45-17:45	シンポジウム〔2F 大会議室〕 ・「ことば」と「考え方」の変化研究：社会言語学の源流を追って 話題提供 ・言語と社会とココロの連鎖モデル..... 横山 詔一（国立国語研究所） ・山形県鶴岡市における共通語化調査とは..... 米田 正人（国立国語研究所） ・鶴岡調査は共通語運用能力のどの側面をとらえてきたのか ..... 阿部 貴人（統計数理研究所） ・継続調査で「考え方」の変化をどうとらえるか—日本人の国民性調査と岡崎敬語調査から— .. 前田 忠彦（統計数理研究所） ・年齢・時代・世代効果を分離するコウホート分析への招待 ..... 中村 隆（統計数理研究所） 指定討論 ・方言研究の観点から ..... 佐藤 亮一（国立国語研究所） ・鶴岡共通語化調査と言語変化研究 ..... 井上 史雄（明海大学） ・社会言語学がWelfare Linguisticsであることの意味 鶴岡調査の根拠と貢献 ..... 佐藤 和之（弘前大学） 司会 杉戸 清樹（国立国語研究所）								
18:30-	懇親会〔立川グランドホテル〕								

9:30-		受付〔統計数理研究所2F 大会議室前ロビー〕				3月17日(日)			
10:00-11:15	ポスター	司会：小西 いずみ（広島大学）, 多々良 直弘（桜美林大学）〔3F・4F リフレッシュコーナー〕 <セッション1> 対話文における文末形式ノダが与える印象 京野 千穂（同志社大学） 他 計11件 <セッション2> 日韓大学生の評価行動に関する社会心理学的研究（2） 関崎 博紀（筑波大学）, 金 庚芬, 趙 海城（以上, 明星大学） 他 計11件							
11:15-12:30									
13:45-14:15	口頭発表	<セッション5> [2F会議室1] 司会：布尾 勝一郎（国際交流基金） ・「せーのっ, よいしょ」 BACKHAUS, Peter（早稲田大学）	<セッション6> [3Fセミナー室5] 司会：本田 弘之（北陸先端科学技術大学院大学） ・大人の声, 子供の声, 自分の声 山下 里香（東京大学/日本学術振興会）	<セッション7> [3Fセミナー室3&4] 司会：森 篤嗣（帝塚山大学） ・謝罪の生起状況と感情体験について TOKSOZ, Levent（広島大学）	<セッション8> [3Fセミナー室1] 司会：阿部 新（名古屋外国語大学） ・独話での表出内容による「ような」「みたいな」選択の相違 志賀 玲子（一橋大学）				
14:20-14:50		・トランプゲームにおけるマルチモーダルなルールの生成 細馬 宏通（滋賀県立大学）	・日中バイリンガル親子の絵本読み聞かせにおける意味交渉のマルチモダリティ 中村 香苗（淡江大学）	・インポライトネス: 相互作用におけるフェイス威嚇行為を中心に 河 正一（埼玉大学）	・日韓政治家の街頭演説における談話展開のストラテジー 韓 娥凜（大阪大学）				
14:55-15:25		・相互行為の中の指差し：指差し行為の非指示性 杉浦 秀行（茨城大学/オークランド大学）	・語り手の自己反復は協働構築性に寄与しないのか：英語会話のナラティブを分析して 内田 らら（東京電機大学）	・関係の変化に伴う相互行為の変容 谷 智子（三重大学）	・社会言語学的視点を取り入れた話し合い能力育成プログラムの開発と実施 村田 和代（龍谷大学）				
15:30-16:00		・日本手話による専門用語表現の研究：表現形式と産出規則の分析 菊地 浩平（国立情報学研究所）	・接触場面初対面会話における異文化成員カテゴリーと話題内容の様相 三牧 陽子, 難波 康治（以上, 大阪大学）	・ほめに関するほめ手と受け手の交渉 張 承姫（関西学院大学）	・ストーリー・テリングによる対話から探る言語運用能力の分析 吉田 悦子（三重大学）, 竹井 光子（広島修道大学）, 渡辺 文生（山形大学）				